

報道関係各位



名刀は語る

美しき鑑賞の歴史

TALES OF
MASTERPIECE JAPANESE SWORDS

TALES OF MASTERPIECE
JAPANESE SWORDS The History of
Aesthetic Appreciation

2019 7.10(水) - 9.23(月・祝)

1. 《雪輪傘透鐔》江戸時代 佐野美術館蔵

公益財団法人佐川美術館（所在地：滋賀県守山市）では、夏季企画展「名刀は語る 美しき鑑賞の歴史」を開催いたします。

日本刀は、古来災いや邪気を払う霊器として神聖視され、武士にとっては、武器であるとともに精神的支柱であり、日本人の精神文化に大きな影響を与えてきました。また、日本刀は、優美な姿、千変万化する刃文など、その見所は多彩であり、日本を代表する美術品として、国内を問わず世界でも高い評価を得ています。

名刀が美しい輝きを放っているのは、鍛刀されてから今日に至るまでの数百年の間、絶えず日本刀を慈しみ、守り、そして、磨き続けてきた人々がいたからです。この間、名刀は多くの人の手に渡り、それにふさわしい多くの物語が生まれました。名刀を持つことで、それに相応しい己になるべく自己を「磨く」人々がいたのです。

本展では、日本有数の刀剣コレクションを誇る佐野美術館の収蔵品より、平安時代から江戸時代にかけての国宝・重要文化財を含む太刀や刀をはじめ、鐔・拵といった刀装具など名品の数々を展示します。約千年にわたる日本刀の歴史を通じて、日本人が培ってきた美意識や文化を是非ご覧ください。

展覧会実施概要

- ◆名称：名刀は語る 美しき鑑賞の歴史
- ◆会期：2019年7月10日（水）～9月23日（月・祝）
- ◆開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、7/16、9/17
- ◆入館料：一般¥1,000(¥800) / 高大生¥600(¥400)（ ）内は20名以上の割引料金
中学生以下は無料 ※ただし保護者の同伴が必要
※ 専門学校・専修学校は大学に準じる
※ 障害者手帳をお持ちの方(手帳をご提示ください)、付添者(1名のみ)無料

[主催]公益財団法人佐川美術館、NHK 天津放送局、NHK プラネット近畿

[後援]滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会

[特別協力]公益財団法人佐野美術館 [制作協力]NHK プロモーション

[協力]SG ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

みどころ

■織田信長や名将・本多忠勝が所持していた名刀・名槍を展示

福岡一字派と呼ばれる刀工の作で、鎌倉時代中期の備前国で制作され、織田信長が所持し、長篠の戦いで武功を立てた長篠城主・奥平信昌に下賜された国宝《太刀 銘一》をはじめ、徳川四天王の一人である本多忠勝が愛用した名槍、静岡県指定文化財《大笹穂槍 銘 藤原正真作（号 蜻蛉切）》など、戦国ロマンを掻き立てる名品を展示します。本多忠勝愛用の「蜻蛉切」は、蜻蛉（トンボ）が穂先に触れるや真っ二つになったという逸話から呼ばれたといい、天下三名槍の一つに数えられています。

■刀身だけでなく、刀装具にも注目

日本刀の美しさは、端正かつ優美な姿、千変万化する刃文などが見所の一つですが、もう一つの魅力として、刀身を収めた鞘（さや）や柄（つか）、鐔（つば）、小柄（こづか）などの刀装具（拵）も見逃すことはできません。《茶席図鐔 銘 西陣住人／埋忠重長》に見る茶席の様子を表現した遊び心あるものや《雪輪傘透鐔》などのデザイン性の高い鐔をはじめ、持主や佩刀者のこだわりはもちろんのこと、職人の技巧が光る刀装具にもご注目ください。

2. 静岡県指定文化財《大笹穂槍 銘 藤原正真作（号 蜻蛉切）》（裏部分）
本多家伝来 室町時代末期（16世紀） 個人蔵（佐野美術館寄託） 刃長 43.6cm



©2015-2019 DMM GAMES / Nitroplus
刀剣男士「蜻蛉切」（通常 ver.）

■刀剣乱舞-ONLINE- コラボレーション企画

近年の刀剣ブームの火付け役となった「刀剣乱舞-ONLINE-」。本展に出品される《大笹穂槍（号 蜻蛉切）》の公開を記念したコラボ企画として、「刀剣乱舞-ONLINE-」に登場する〈刀剣男士「蜻蛉切」〉の等身大パネルの設置やグッズ販売を行います。

①刀剣男士「蜻蛉切」等身大パネル展示

- 通常 ver. 7月10日（水）～8月18日（日）
- 戦闘 ver. 8月20日（火）～9月23日（月・祝）

②刀剣男士「蜻蛉切」関連グッズ販売

「刀剣乱舞-ONLINE-」とは、DMMGAMES とニトロプラスが手がけるPCブラウザ&スマートフォン向け刀剣育成シミュレーションゲームです。本ゲームには、名だたる刀剣が戦士へと姿を変えた“刀剣男士”と呼ばれるキャラクターたちが登場。個性豊かな刀剣男士を収集・強化・育成、部隊を結成し、さまざまな合戦場を攻略していきます。本作の流行により若い女性を中心に刀剣愛好家の層は広がり、「刀剣男士」のモチーフと全国各地に足を運ぶ人々が増えています。

また、本ゲームと刀剣を所蔵する寺社や博物館・美術館などが協働することで、文化財を活用した観光振興・地域活性化、これまであまり展示されることのなかった品が展示される運びとなるなど、その影響は幅広い分野に波及しています。

イベント情報

■記念講演会 日時：8月18日（日）14：00～

講師：渡邊 妙子氏（佐野美術館館長）

定員：100名（先着） 参加費：無料 ※但し入館料は必要 会場：樂吉左衛門館ロビー

主な出品作品



3. 国宝 《太刀 銘 一》 松平（奥平）家伝来 鎌倉時代中期（13世紀） 個人蔵（佐野美術館寄託） 刃長 71.0cm

一文字 Ichimonji

茎（なかご）に「一」の字があるのは、備前国福岡荘に住んでいた福岡一文字派と呼ばれる刀工の作。銘字「一」は書体が時代によって異なり、この太刀は鎌倉中期の作である。刃文は大きな丁子が連なり、絢爛豪華な作である。長篠城主奥平信昌は、天正3年（1575）の長篠の戦いで、織田信長・徳川家康の連合軍が到着するまで、武田勝頼の大軍を相手にわずかな手勢で籠城して持ちこたえた。その功を賞して織田信長が信昌に与え同家に伝来したものである。



4. 重要文化財 《刀 金象嵌銘 備前国兼光／本阿弥（花押）（名物 大兼光）》
徳川將軍家伝来 南北朝時代（14世紀） 佐野美術館蔵 刃長 83.5cm

大兼光 Ohganemitsu

兼光は長光の孫、長船鍛冶の四代目を継いだ名工であり、時代の潮流に乗った新しい作風を創作した。年紀銘も多く、約30年にわたり、すべて北朝の年紀を刻んでいる。初期の作風は父景光に近く、延文（1356-1361）頃には大鋒の大太刀が作られ、鎌倉流のたれ刃文となる。この刀は延文頃の典型的な作で、もとの太刀は刃長1mを超える長大な姿であった。精美な美しい地肌には、一部の緩みもなく、刃文は正宗などの躍動的な刃文とは異なり、春の海のような静かなうねりである。茎の金象嵌銘は本阿弥光温（家督相続期間 1626-1666）である。『享保名物帳』に所載され、太閤の遺物として藤堂高虎（1556-1630）が拝領。その後徳川將軍家に移り、同家に伝来した。



5. 重要美術品 《脇指 銘 相模国住人廣光／康安二年十月日（号 火車切）》
上杉家伝来 康安2年（1362） 佐野美術館蔵 刃長 38.4cm

火車切 Kashagiri

地鉄は、板目に杓目交じり、地沸厚くつき、地景入り、飛び焼き・棟焼きも入る。刃文は丁子・互の目交じり、足・葉が盛んに入り、沸つよく、金筋・砂流しが盛んに入りにぎやかな刃文である。彫物は梵字・三鈷柄剣・護摩箸が彫られている。広光の皆焼の中でも、華やかな作である。この脇指には上杉謙信の腰刀として、黒漆塗小サ刀拵が付属する。上杉家の腰物帳には「火車切」、いわれは不明としている。

TALES OF MASTERPIECE JAPANESE SWORDS The History of Aesthetic Appreciation



6. 《茶席図鐔 銘 西陣住人／埋忠重長》
江戸時代 佐野美術館蔵

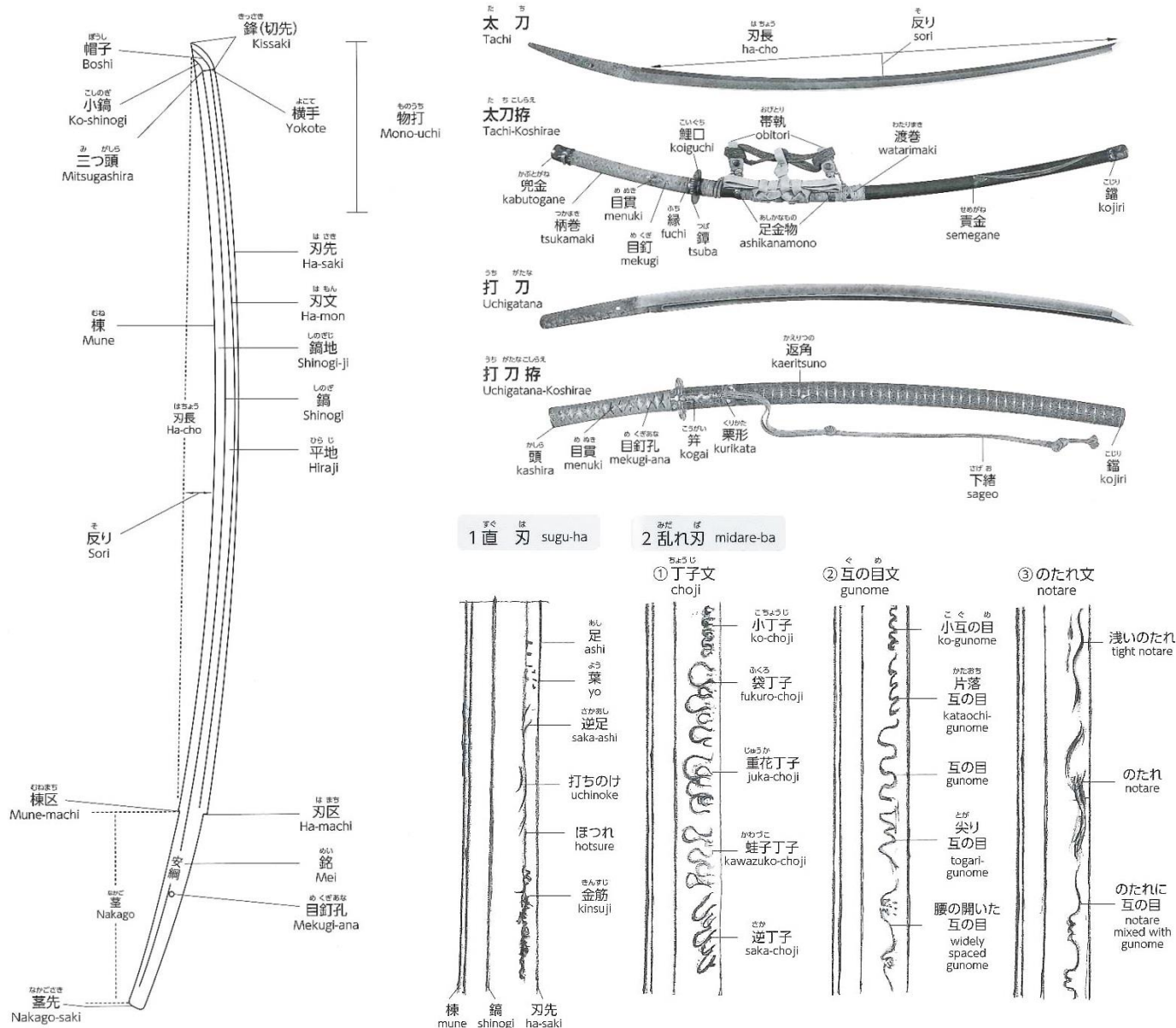


7. 《道成寺物語図縁頭 銘 大森英秀(花押)》(縁)
大森英秀 江戸時代
佐野美術館蔵



8. 《秋草虫尽図揃大小金具 銘 後藤法橋一乗(花押)》(目貫) 後藤一乗
江戸時代 佐野美術館蔵

参考資料 (佐野美術館発行『日本刀 鑑賞のしおり 佐野美術館蔵品シリーズ4』(2016年)より一部改変して転載)



●広報用写真について

本プレスリリース中に掲載している画像データをご用意しております。

画像データをご希望の方は、同封の作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

当館ホームページ(<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)から画像申請も受け付けております。

その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。トリミングなどの画像の加工はご遠慮ください。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

●プレゼント用招待券について

読者・視聴者・リスナーへのプレゼント目的にかぎり、本展覧会会期中有効のご招待券を10枚までご提供させていただきます。

ご希望の方は同封の作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

◆交通のご案内:

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神京都東 IC から湖西道路 (真野 IC)・琵琶湖大橋経由 (約 30 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線堅田駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 15 分)

◆連絡先◆

公益財団法人佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL:077-585-7800/FAX:077-585-7810

企画担当学芸員：藤井 康憲 (ふじい やすのり)

y_fujii010@sagawa-artmuseum.or.jp

作品画像使用申込書



佐川美術館 宛 FAX / 077-585-7810

TALES OF MASTERPIECE JAPANESE SWORDS
The History of Aesthetic Appreciation

申込日 2019年 月 日

作品画像の掲載等ご使用にあたっての注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 申請された方法、目的以外には使用しないでください ● 掲載誌・紙は資料として1部以上お送りくださいますよう、お願い致します
使用作品	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 《雪輪傘透鐔》江戸時代 佐野美術館蔵 <input type="checkbox"/> 2. 静岡県指定文化財《大笹穂槍 銘 藤原正真作（号 蜻蛉切）》(裏部分) 本多家伝来 室町時代末期(16世紀) 個人蔵(佐野美術館寄託) <input type="checkbox"/> 3. 国宝《太刀 銘 一》松平(奥平)家伝来 鎌倉時代中期(13世紀) 個人蔵(佐野美術館寄託) <input type="checkbox"/> 4. 重要文化財《刀 金象嵌銘 備前国兼光／本阿弥(花押) (名物 大兼光)》 徳川將軍家伝来 南北朝時代(14世紀) 佐野美術館蔵 <input type="checkbox"/> 5. 重要美術品《脇指 銘 相模国住人廣光／康安二年十月日 (号 火車切)》 上杉家伝来 康安2年(1362) 佐野美術館蔵 <input type="checkbox"/> 6. 《茶席図鐔 銘 西陣住人／埋忠重長》 江戸時代 佐野美術館蔵 <input type="checkbox"/> 7. 《道成寺物語図縁頭 銘 大森英秀(花押)》(縁) 大森英秀 江戸時代 佐野美術館蔵 <input type="checkbox"/> 8. 《秋草虫尽図揃大小金具 銘 後藤法橋一乗(花押)》(目貫) 後藤一乗 江戸時代 佐野美術館蔵 <p>※ご希望の作品にチェックを入れてください。</p> <p style="text-align: right;">計 _____ 枚</p>
媒体名	
貴社名	
ご芳名(ご所属)	(_____)
ご連絡先	ご住所: (〒 _____) e-mail: _____ TEL: _____ FAX: _____
発行(掲出)予定日	_____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 号
使用形態(○印)	Web サイト / 印刷物(カラー / モノクロ)
招待券希望枚数	読者プレゼント用として、招待券 _____ 枚 ※ 枚数は10枚以内でお願いいたします。ご了承ください。